

第69回 日本教育社会学会大会(於:一橋大学)

I-2部会 大学生 23番教室

2017年10月21日(土) 9:30-9:55

「部・サークル活動」からみる 大学生文化の特質

—4時点調査の比較から—

○浜島幸司 (同志社大学)

武内 清 (敬愛大学)

1. ①本報告の目的

大学教育改革は正課科目(学業)中心

正課外活動も学生生活の柱では？

とくに「部・サークル活動」

ここに注目した大学生文化研究は？

正課

実習
(インターンシップ)

授業

学外

学内

アルバイト

部・サークル活動

趣味活動

正課外

図0 学生生活イメージ

1. ①本報告の目的 先行研究

●社会変動の視点

岩田(2003,2011)および岩田・黒河内(2010)

全国大学生協連合会の「学生生活実態調査」データから

勉強文化からサークル(遊び)文化への変遷

●活動比重による学生の視点

武内・浜島(2003)

1997年実施の「19大学 大学生調査」データから

**「部・サークル活動」比重が高い学生ほど
大学および学生生活に満足**

1. ①本報告の目的 先行研究

●初年次適応の視点

田澤・梅崎(2011)

サークル活動に入ると所属大学に適応する

●職業との接続の視点

松繁(2005)

体育会参加者は就職活動に有利なのか

●学習成果の視点

時任・久保田(2012)

進路決定や自己成長の物語として
活動成果を自認する

1. ①本報告の目的

「部・サークル」を扱った研究はいくつかあるが.....

大学生文化研究における 「部・サークル活動」の 含意はどこにあるのか？

- 大学生の生活世界＝「活動の意味づけ」＋「活動外との関わり」
→活動状態とそれに伴う意識・態度との関連で検討

現代の大学生文化の分化？ 多様な大学生の姿の可視化？

- 大学は正課外活動にどのような支援ができるのかを提起する

1. ①本報告の目的

リサーチクエスチョン

「部・サークル活動」を中心に

I 活動状態を確認

4時点の調査データをもとに比較

II (活動に伴う)意識・態度との関連

2013年データを使用して他の学生生活との比較

1. ②使用データ 4時点調査

「大学生文化研究会」が4時点で実施した調査
→継続実施した下記7大学のみを使用

1997年→2003年→2007年→2013年

表1 大学別 分析サンプル

(セル内は人数)

調査年

調査大学

調査年	A大学	C大学	D大学	F大学	G大学	J大学	L大学	合計
1997年	84	87	147	202	201	114	119	954
2003年	114	117	99	399	433	111	131	1404
2007年	84	169	67	337	442	70	146	1315
2013年	127	187	114	174	219	96	149	1066
合計	409	560	427	1112	1295	391	545	4739

1. ②使用データ 2013年調査

- 調査対象：14大学(人文・教育・社会科学系学部)
国立4校、私立10校
- 調査主体：大学生文化研究会
代表：武内清(敬愛大学)
科研費報告書刊行(2015年3月)
- 実施期間：2013年11月～12月
- 調査方法：質問紙調査法(自記式)
- 有効回答：1771名



1. ②使用データ 2013年調査

表2 分析サンプルの属性

大学名	A大学	C大学	D大学	ホ大学	F大学	G大学	H大学	J大学	L大学	W大学	Z大学	イ大学	ロ大学	ニ大学	14大学	
設置形態	国立				私立										全体	
地区	東京	関東	九州	関西	東京	関西	東京	東京	九州	東京	関東	関西	関西	東京		
入学難易度	A	B	B	A	A	A	B	C	C	C	B	C	C	B		
サンプル数	127	187	114	42	174	219	188	96	149	102	89	133	84	67	1771	
性別	男	73.2%	32.1%	38.6%	47.6%	30.1%	50.2%	47.9%	29.5%	45.6%	7.8%	—	50.4%	—	50.7%	38.1%
	女	26.8%	67.9%	61.4%	52.4%	69.9%	49.8%	52.1%	70.5%	54.4%	92.2%	100.0%	49.6%	100.0%	49.3%	61.9%
専攻	人文科学系	36.5%	0.0%	0.0%	7.1%	65.9%	0.0%	32.4%	12.6%	38.8%	0.0%	67.1%	0.8%	0.0%	43.3%	21.5%
	社会科学系	4.8%	0.0%	0.0%	71.4%	4.0%	100.0%	44.7%	77.9%	48.3%	0.0%	26.8%	99.2%	0.0%	50.7%	38.6%
	社会福祉系	0.0%	0.0%	46.5%	0.0%	8.1%	0.0%	16.0%	7.4%	9.5%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.8%
	教員養成系・教育系・子ども系	27.0%	100.0%	51.8%	7.1%	11.6%	0.0%	6.9%	0.0%	0.7%	99.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	28.5%
	その他	31.7%	0.0%	1.8%	14.3%	10.4%	0.0%	0.0%	2.1%	2.7%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%	6.0%	4.6%

※入学難易度は、代々木ゼミナールのHP記載の2013年度大学入試難易度(偏差値)を使用し、A:60以上、B:59~50、C:49以下とした

学科が複数にわたる場合には、各学科の偏差値の中央値をとった

※専攻=学部、学科

武内(研究代表)(2015:4)

2. 時点比較から

2.1 「部・サークル活動」学生は減ったのか？

減っていない → むしろ2013年は加入中が増

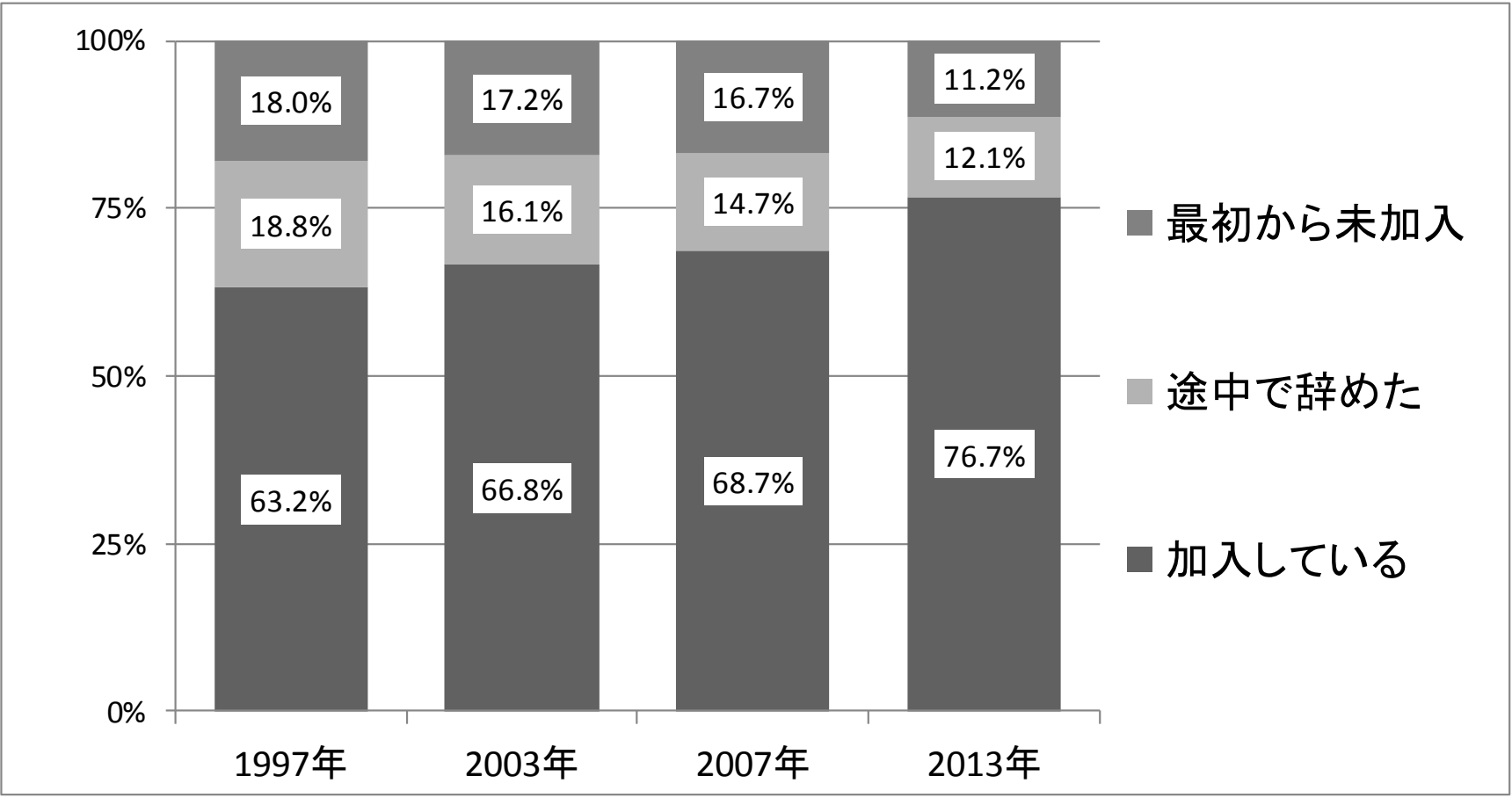


図1 時点別 「部・サークル」加入状況

2.2 種別に変化はみられるのか？

体育会・運動系 から 文科系、社会活動関係 増

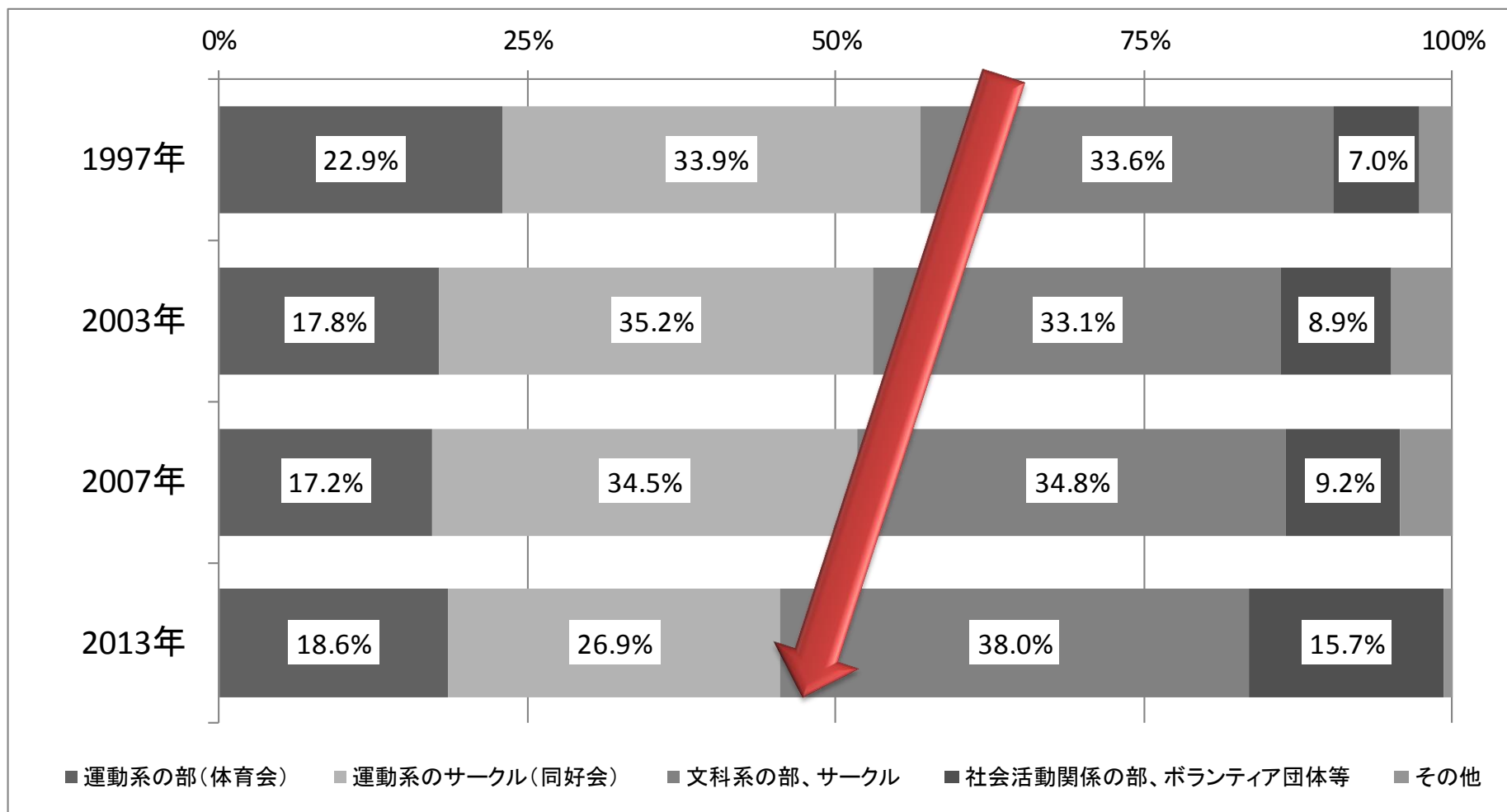


図2 時点別 活動種別の構成割合

2.3 活動比重は弱まったのか？

各時点ともに60%前後で大幅は増減はない

表3 時点別 活動比重(「高い」%)

	部・サークル活動
1997年	61.2%
2003年	58.6%
2007年	62.7%
2013年	61.0%

(加入者のみ)

体育会系所属者の多くが「高い」と回答する

活動比重が「高い」%

加入者のみ

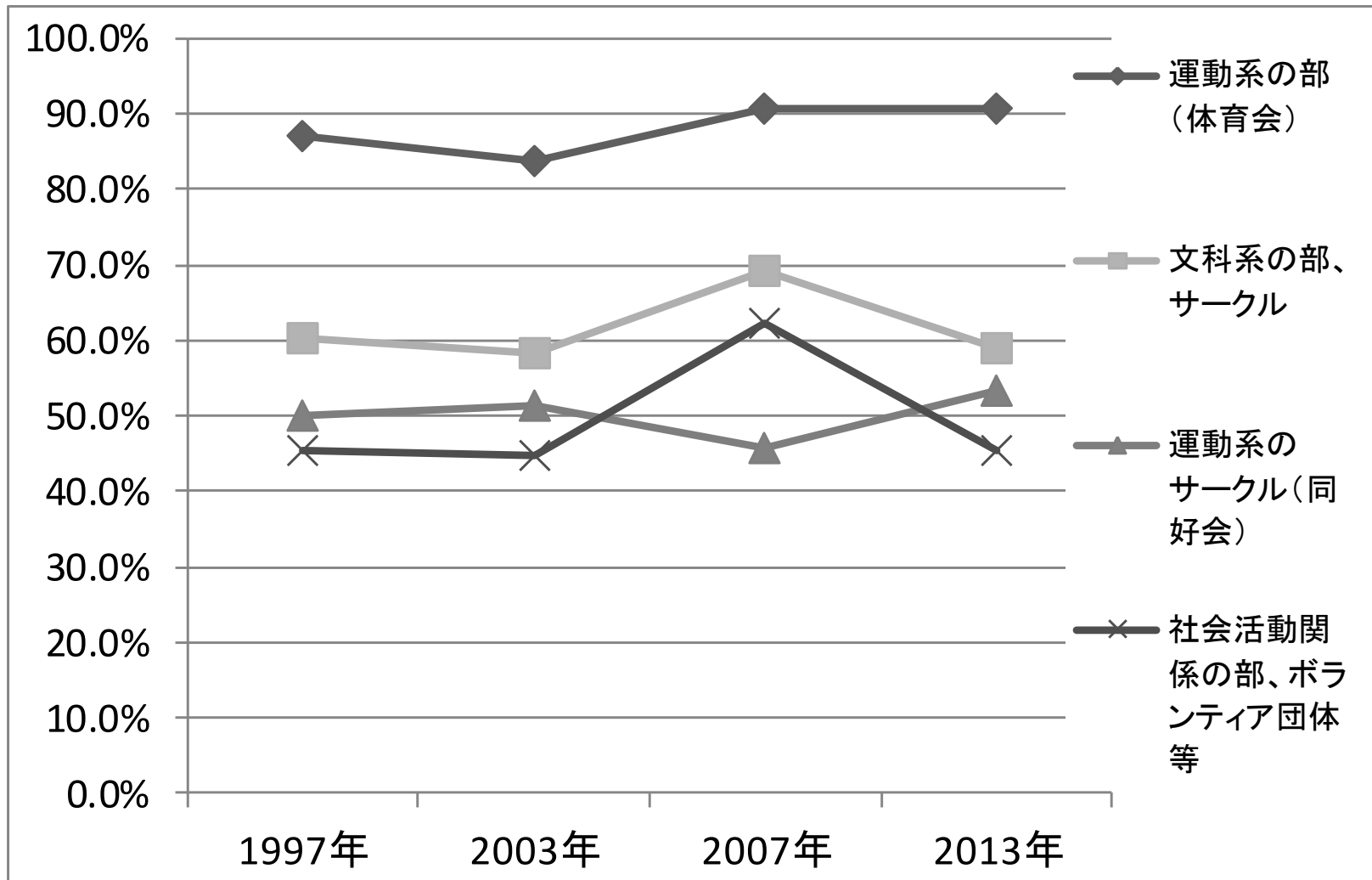


図3 時点別活動種別別活動比重

2.4 他の活動比重との比較

交友 > 部・サークル活動 > 勉強 > アルバイト

活動比重が「高い」%

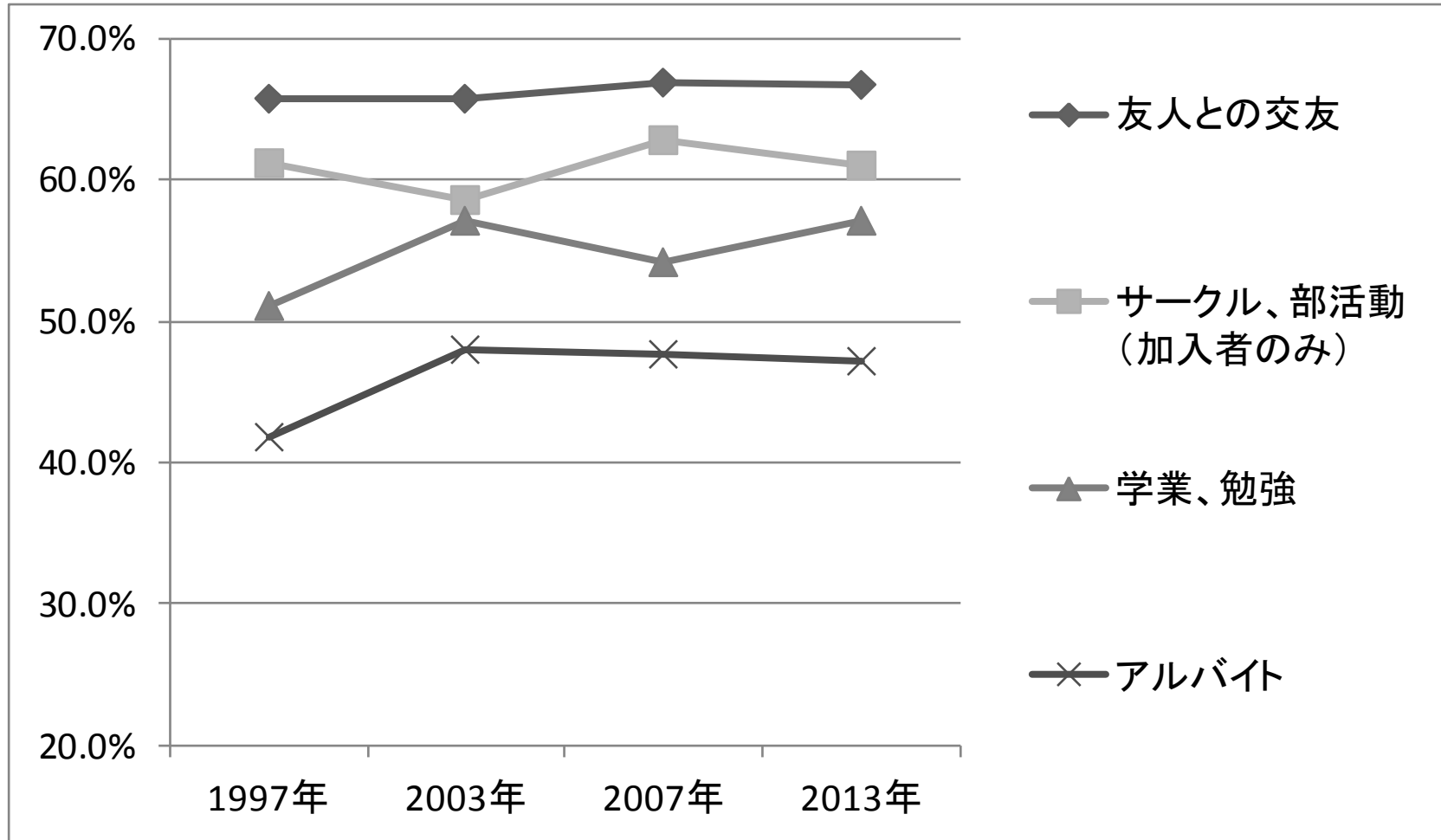


図4 時点別 学生生活の活動比重

「部・サークル活動」

I 活動状態を確認

4時点の調査データをもとに比較

- 参加者は横ばいもしくは2013年で増
- 運動系から文科系・社会活動(ボランティア)系へ
- 体育会所属学生の活動比重が群を抜いて高い
- 参加者の活動比重は不変(勉強以上、交友未満)

3. 2013年調査比較から

大学別に 加入状況 が異なる
 大学別に 活動種別割合 が異なる
 大学別に 活動比重 が異なる

} 分化

表4 大学別 「部・サークル」加入状況

		回答者 N	1761	127	187	114	42	174	219	187	95	144	102	89	133	84	64
大学名		全体	A	C	D	ホ	F	G	H	J	L	W	Z	イ	ロ	ニ	
加入の有無	加入中	74.2%	84.3%	84.5%	72.8%	100.0%	74.7%	78.1%	76.5%	65.3%	70.8%	55.9%	76.4%	73.7%	39.3%	81.3%	
	途中で辞めた	11.3%	7.9%	9.1%	14.0%	0.0%	16.1%	13.7%	12.8%	15.8%	8.3%	11.8%	6.7%	12.8%	10.7%	4.7%	
	最初から未加入	14.5%	7.9%	6.4%	13.2%	0.0%	9.2%	8.2%	10.7%	18.9%	20.8%	32.4%	16.9%	13.5%	50.0%	14.1%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表5 大学別 活動種別の構成割合・活動比重

(加入者のみ)

		加入者のみ N	1310	107	157	83	42	129	170	143	63	107	57	68	97	33	54
大学名		全体	A	C	D	ホ	F	G	H	J	L	W	Z	イ	ロ	ニ	
参加種別	運動系の部(体育会)	18.0%	26.2%	15.8%	50.6%	4.8%	18.5%	5.3%	24.5%	1.6%	21.6%	3.5%	7.4%	22.4%	33.3%	13.5%	
	運動系のサークル(同好会)	27.0%	17.8%	32.3%	14.5%	2.4%	16.9%	50.3%	29.4%	19.4%	16.7%	42.1%	45.6%	19.4%	6.1%	28.8%	
	文科系の部、サークル	35.5%	49.5%	31.6%	22.9%	7.1%	51.5%	27.5%	28.0%	59.7%	35.3%	35.1%	8.8%	49.0%	33.3%	50.0%	
	社会活動関係の部、ボランティア団体等	18.4%	6.5%	20.3%	12.0%	83.3%	12.3%	15.8%	16.8%	19.4%	23.5%	14.0%	36.8%	8.2%	24.2%	7.7%	
	その他	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.8%	1.2%	1.4%	0.0%	2.9%	5.3%	1.5%	1.0%	3.0%	0.0%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活動比重	大学名	全体	A	C	D	ホ	F	G	H	J	L	W	Z	イ	ロ	ニ	
	「高い」(「大部分」+「かなり」)	59.2%	80.4%	61.1%	71.1%	85.7%	58.1%	54.7%	58.7%	52.4%	52.3%	21.1%	47.1%	56.7%	60.6%	72.2%	
	「低い」(「少し」+「ほとんどなし」)	40.8%	19.6%	38.9%	28.9%	14.3%	41.9%	45.3%	41.3%	47.6%	47.7%	78.9%	52.9%	43.3%	39.4%	27.8%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

3.1交友・大学生生活満足

活動比重の高い学生 → 交友が広くて、深い

表6 活動状態別 友だち・交友に関する項目

		友達	友人との交友 比重	学科やクラスの 友人関係	お昼ご飯を一 緒に食べる	インターネットで やり取りをする	学外でも遊んだり 食事をしたりする	悩みを相談する
N		「今の大学の人が多い」	「高い」	「満足」	「する」	「する」	「する」	「する」
加入(比重高い)	771	44.6%	73.5%	79.9%	88.3%	90.5%	83.0%	68.1%
加入(比重低い)	530	33.4%	65.7%	82.2%	90.7%	90.0%	79.2%	65.6%
途中で辞めた	199	21.2%	60.6%	73.7%	85.9%	79.3%	70.2%	61.6%
最初から未加入	256	18.8%	58.0%	73.8%	84.4%	78.9%	65.2%	58.4%
全体	1756	34.8%	67.4%	79.0%	88.2%	87.4%	77.8%	65.2%
最大-最小		25.9	15.5	8.5	6.4	11.6	17.8	9.7

※Nは設問によって無回答者もいるため参考値として掲載している

3.1交友・大学生生活満足

活動比重の高い学生 → 学内生活に満足

表7 活動状態別 大学生生活・施設等への満足

		図書館	今の大学に入ったこと	校舎、教室	大学全体の雰囲気	購買部(売店など)	大学の周辺の環境	食堂	異性との出会いや交際関係
N		「満足」	「満足」	「満足」	「満足」	「満足」	「満足」	「満足」	「満足」
加入(比重高い)	771	76.1%	79.0%	69.5%	67.8%	55.8%	42.8%	43.5%	41.4%
加入(比重低い)	530	79.4%	71.9%	67.7%	62.9%	48.6%	41.0%	39.0%	30.2%
途中で辞めた	199	69.7%	66.2%	61.6%	56.6%	43.9%	42.4%	33.8%	24.4%
最初から未加入	256	67.5%	62.5%	55.9%	48.8%	43.5%	31.6%	36.2%	20.4%
全体	1756	75.1%	73.0%	66.1%	62.3%	50.5%	40.6%	40.0%	33.0%
最大-最小		12.0	16.5	13.7	18.9	12.3	11.2	9.6	21.0

※Nは設問によって無回答者もいるため参考値として掲載している

3.2 学業、勉強

授業、勉強面の項目からは、差を捉えにくい

表8 活動状態別 授業、勉強に関する項目

	N	授業出席	学業、勉強比重	就職活動に役立つこと をもっと教えてほしい	授業で分からないところ を教えてください、 場所がほしい	授業全般に 満足している	授業の 予習・復習時間
		「90%以上」	「高い」	「そう」	「そう」	「そう」	平均(分)
加入(比重高い)	771	65.7%	51.3%	59.3%	51.0%	44.2%	24.0
加入(比重低い)	530	70.6%	60.4%	68.2%	54.5%	48.3%	24.8
途中で辞めた	199	62.6%	63.6%	59.8%	54.8%	41.7%	32.1
最初から未加入	256	63.9%	68.8%	61.7%	52.7%	46.5%	35.0
全体	1756	66.6%	58.0%	62.4%	52.7%	45.5%	26.7
最大-最小		7.9	17.5	8.9	3.8	6.6	11.1

※Nは設問によって無回答者もいるため参考値として掲載している

3.2 学業、勉強

活動比重の高い学生 → 大学は勉強以外の場

表9 活動状態別 大学観(5項目)

N		大学観A	大学観B	大学観C	大学観D	大学観E
		大学はさまざまな体験をする場	自分の興味のかかれる科目を選択	試験やレポートがよければ良い成績を	大学の授業は知的刺激	学生の自主性にまかせたほうが
加入(比重高い)	771	61.1%	69.0%	57.5%	57.9%	83.4%
加入(比重低い)	530	52.9%	67.1%	49.2%	52.4%	81.6%
途中で辞めた	199	49.7%	66.7%	53.1%	56.7%	80.4%
最初から未加入	256	39.6%	69.3%	54.4%	47.0%	83.3%
全体	1756	54.2%	68.2%	54.0%	54.5%	82.5%
最大-最小		21.5	2.7	8.2	10.9	2.9

※Nは設問によって無回答者もいるため参考値として掲載している

3.3 生活比重

活動しない学生 → アルバイト・趣味の比重 大

表10 活動状態別 他の大学生生活の比重

		アルバイト	趣味	異性(恋人)との 交際	ダブルスクール
N		「高い」	「高い」	「高い」	「高い」
加入(比重高い)	771	46.5%	48.0%	27.7%	2.1%
加入(比重低い)	530	49.7%	45.6%	22.9%	1.0%
途中で辞めた	199	55.3%	60.4%	24.0%	2.1%
最初から未加入	256	53.7%	53.1%	23.6%	4.7%
全体	1756	49.5%	49.4%	25.2%	2.2%

最大－最小

8.7

14.8

4.9

3.7

※Nは設問によって無回答者もいるため参考値として掲載している

3.4 性格や考え方

活動比重の高い学生 → 向社会性の傾向

表11 活動状態別 自分の性格や考え方に関する項目

		毎日が充実している	自由に使える時間がたくさんある	人と一緒にいるより1人である方が好きだ	将来のことより、現在を大切にしたい	異性の視線が気になる	自分のためより社会のために働きたい
N		「そう」	「そう」	「そう」	「そう」	「そう」	「そう」
加入(比重高い)	771	81.5%	52.1%	47.7%	53.8%	47.3%	46.6%
加入(比重低い)	530	73.7%	59.4%	46.4%	46.1%	42.9%	43.0%
途中で辞めた	199	62.3%	62.3%	56.6%	45.7%	40.2%	36.2%
最初から未加入	256	64.7%	59.4%	60.2%	50.4%	34.8%	38.4%
全体	1756	74.5%	56.6%	50.1%	50.1%	43.3%	43.1%
最大-最小		19.1	10.2	13.8	8.1	12.5	10.4

※Nは設問によって無回答者もいるため参考値として掲載している

「部・サークル活動」

Ⅱ (活動外)意識・態度との関連

2013年データを使用して他の学生生活との比較

- 大学内の交友比重、満足度と関係がある
- 大学内の生活、施設満足と関係する
- 勉強関連については大きな差はみられない
- 学生個人の性格や考え方と関係がある

4. 「部・サークル活動」からみえること

- 大学改革で授業重視が提唱されても・・・
多くの学生たちは「部・サークル活動」に参加
活動比重も低下することはない(60%前後)
活動状態で交友面、大学満足など変わる
一方で、勉強面については活動と関係ない

- 「部・サークル活動」への関わりは・・・
(インフォーマルながらも)

キャンパスライフを充実へと導く機能がある

→ 大学生文化研究

インフォーマルな側面からの
学生たちの多様な関わりに注目

大学生文化研究における
「部・サークル活動」の
含意はどこにあるのか？

現代の大学生文化の分化 多様な大学生の姿の可視化

大学は正課外活動にどのような支援ができるのか？

- 正課外活動をどう位置づけているか明確化する
- 正課(学業)と両立できる環境を用意する
- 自分にあった組織に学生が参加できるようにする
- 多様な組織、多様な学生の価値観を認める

＜参考文献＞

- 浜島幸司, 2015, 「4時点における学生の「生徒化」と大学の「学校化」の検討—1997年・2003年・2007年・2013年データの比較から—」『現代の学生文化と学生支援に関する実証的研究—学生の「生徒化」に注目して—』, 平成24～26年度科学研究費研究補助金(基盤研究(C))研究成果最終報告書, pp.57-68.
- 岩田弘三, 2003, 「サークル文化のあゆみ」『キャンパスライフの今』, 玉川大学出版部, pp.219-241.
- 岩田弘三, 2011, 「キャンパス文化の変容」, 稲垣恭子編, 『教育文化を学ぶ人のために』, 世界思想社, pp.26-53.
- 岩田弘三・黒河内利臣, 2010, 「設置者別にみた学生生活費と学生文化の推移—全国大学生生活協同組合連合会『学生の消費生活に関する実態調査』データをもとに—」『私学高等教育データブック2010』, 私学高等教育研究叢書, pp.11-42.
- 松繁寿和, 2005, 「体育会系の能力」, 『日本労働研究雑誌』, No.537, pp.49-51.
- 武内清(研究代表), 2015, 『現代の学生文化と学生支援に関する実証的研究—学生の「生徒化」に注目して—』, 平成24～26年度科学研究費研究補助金(基盤研究(C))研究成果最終報告書.
- 武内清・浜島幸司, 2003, 「部活動・サークル活動」『キャンパスライフの今』, 玉川大学出版部, pp.31-41.
- 田澤実・梅崎修, 2011, 「大学生活への意欲と達成が自尊感情に与える影響—大学1年生に対する縦断調査—」, 『京都大学 高等教育研究』, 第17号, pp.67-71.
- 時任隼平・久保田賢一, 2012, 「卒業生を対象とした正課外活動の成果とその要因に関する研究」, 『日本教育工学会論文誌』, Vol.36, No.4, pp.393-405.